TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

主は王である 主が来られるのを待つ
ヤコブの手紙 5:7-11

2023年2月4日5日
余沢 武 牧師

I:はじめに

こんにちは。政府により新たに発布されたコロナ対策のガイドラインにより、グループごとに空席を設ける必要がなくなりました。ただし、もし隣に空席を確保したい場合はこちらのカードをうしろに用意しています。ご自分の隣の席に置いていただいて構いません。

ヤコブの手紙で、「自分は何者か」そして「神はどんな存在か」を理解し、神に人生をゆだねることが必要だと学んできました。そして、私たちは神を愛し、神を信じて従い、そして他の人を愛する事に、集中するべきなのです。

先週、裕福な人達の中にこれらを行わない人がいることを学びました。主や他の人を愛するためにお金を使う代わりに、彼らは自分を愛するためだけに使っています。「虐げられた貧しい人」の叫びは神に届いており、そしていつか主は彼らを裁かれるでしょう。

今日は、「虐げられた貧しい人」や虐待を受けている人も、どのように彼らの人生を神にゆだねる必要があるのか、そして神を愛し他の人々を愛することに重点をおくのか、を見ていきます。その前に祈りましょう。

Ⅱ.主が来られるのを待つ

(1)　忍耐しなさい

では、ヤコブ 5:7 からです。
「[7] それゆえ、きょうだいたち、主が来られる時まで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待ちます。」
0..
「それゆえ」とは、あなたの嘆きは神に届いているので、いつか主は虐げた人を裁いて罰をあたえる、と意味しています。ヤコブは言います「主が来られる時まで忍耐しなさい」
「忍耐する」とは「待つ」ということです。主の「裁き」と「罰」を「待つ」ことです。

パレスチナでは、2 回雨季があります。最初の雨季は 10 月に来て、種まき用に土を準備してくれます。次の雨季は 3 月から 4 月にかけて来て、作物の成長を助けます。農夫は皆この時期を辛抱強く待たなければなりませんでした。彼らにはこの過程を早めることはできません。

彼らは、神が適切な時期に雨をもたらすことを信じ、それを待っている間に自分たちのやるべき事、雑草を刈り、肥料をやる、など作物を生産するためにすべきことに、集中する必要がありました。

この農夫たちのように、私たちが辛辣な言葉や扱いを受けたときは裁きがあるでしょう。しかし、私たちは神様のタイミングを忍耐強く待つ必要があります。私たちにこのプロセスを早めることは出来ません。

神が私たちの祈りを聞いてくださっており、適切な時に裁きが行われると信じて、それまで自分のするべきことを行うことに集中するべき---神を信じ、御言葉に従い、他の人を愛し、そしてイエスの人格を育てるためにすべきこと、にです。

8 節でこう続けます。
「[8] あなたがたも忍耐しなさい。心を強く保ちなさい。主が来られる時が近づいているからです。」

ヤコブは言います「心を強く保ちなさい」---備えておくべきです。イエスが来られる日は「近い」のです。今私たちはどうやってそれを期待すべきか悩むところでしょう。イエスが昇天してから 2000 年過ぎています。わたしたちは「近い」とは相対的な言葉であることを理解する必要があります。

例を挙げさせてください。「かげろう（蜻蛉）」について考えます。「かげろう」は「寿命」がとても短いと本で読みました。「幼虫」が育つのに 1 年かかり、成虫の

「かげろう」になると１日しか生きられないそうです。「かげろう」として飛んでいる間に、池で泳いでいる「おたまじゃくし」を見るとしましょう。

その「かげろう」は、その「おたまじゃくし」がカエルになる時が「近い」と知ることは出来ないでしょう。その午後、寿命が尽きかけた頃に「かげろう」はもう一度「おたまじゃくし」を見るかもしれません。その時はまだ「おたまじゃくし」の姿でしょう。するとその「かげろう」にとっては「おたまじゃくし」は永遠に「おたまじゃくし」なのです。

私たちは神のカレンダーの上では「かげろう」みたいなものです。神の時間の「永遠の視点」からすれば、イエスの再臨と審判の時は「近い」のです。ただ私たちにとっては、それは永遠のように感じるのです。

だからペトロはこう書いたのです。
「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。」（ペトロの手紙二 3:8b）

他の人から辛辣な言葉や扱いを受けたとき、神は、神が私たちの復讐者になるといわれますが、イエスが再臨される時が、神の時なのです。その時は「近い」でもまだ来ていません。神が統治されていて、そしてこの待っていることに神は「目的」をもっておられます。私たちは神を信じ、忍耐強く待つ必要があります。

（2） 不平を言ってはならない

ただ、避けるべきことがあります。9節です。
「[9] きょうだいたち、裁かれることがないように、互いに不平を言ってはなりません。見なさい、裁く方が戸口に立っておられます。」

彼は言います。「互いに不平を言ってはなりません。」私たちが他の人から辛辣な言葉や扱いを受けた時、これらは何も間違いではありません…。
相手に対し、穏やかに止めるようたのむ。しかし、相手は止めてくれないかもしれません。
もしくは、穏やかにしかるべき権威ある所に助けを求める。しかし、助けられる十分な権威はないかもしれません。

それでも、ひとつだけすべきではないことがあります。不平を言ってはいけません…さもなくば、私たちは自分に罪を犯してしまいます。ヤコブはこう言います。「裁かれることがないように、互いに不平を言ってはなりません。」

スポーツにおいて、野球、フットボール、バスケットボール、サッカーなどでは、よく選手二人が争いになって、二人とも審判によって試合から退場させられる場面を見ます。

実際に起こったことを見てみると、大抵は一人の選手がもう一人の選手に向かって挑発的な言葉や態度、またはプレイをすることから始まっています。その二番目の選手が我を忘れ、自らを争いに引き入れてしまい、そして最初の選手と共に退場させられるのです。

その時二番目の選手は、自分はこの出来事の「被害者」で審判は不公平だと思うかもしれません。しかしそうでしょうか？ いいえ、なぜなら二番目の選手も罪を犯しています。誰が最初に罪を犯したかは関係ないのです。罪は罪です。もし彼も罪を犯したのなら、彼も有罪なのです。

これがヤコブの言っている事なのです。他の人から先に辛辣な言葉や扱いを受ける事はあるでしょう。しかし、もし私たちが罪をもって対応したら、「不平」を言いはじめたら、神の目には私たちも等しく「有罪」なのです。私たちも「裁かれる」ことになります。

もし私たちがクリスチャンならば、「救い」を失うことはありません。しかし、神によって罰せられるかもしれません。労働の報酬を失うことも、自分の不平が他の人への証を台無しにてしまうこともあるでしょう。

（3） 預言者を観察する

ではどう反応すべきでしょうか？ 彼は続けます。
10－11 節「[10] きょうだいたち、主の名によって語った預言者たちを、苦難と忍耐の模範としなさい。[11] 私たちは忍耐した人たちを幸いな者とたたえます。あなたがたは、ヨブの忍耐について聞き、主がもたらした結末を知っています。主は憐れみに満ち、慈しみ深い方です。」

他の人から辛辣な言葉や扱いを受けたら、不平を言うかわりに、忍耐強く待つのです。預言者たちや旧約聖書のヨブに見る例のように。

聖書の預言者たち・・・モーセ、エリシャ、イザヤ、エレミヤそして他にも、彼らは皆神を愛していました。神を信頼していました。御言葉に従い神の民を愛していました。彼らは主の言葉を主の御名によって神の民に語り、彼らに警告し、彼らを愛しました。

例え人々が非友好的だったとしても、預言者たちは忍耐強く仕えました。彼らは神に抗議したかもしれませんが、他の人々には不平は言いませんでした。そして人々が神に裁かれるところを見た時、彼らは深く悲しみました。人々を愛していたからです。これが私たちの模範です。

ヨブの場合、子供、富、健康、彼の全てを失いました。激しい苦痛の中でヨブですら神に問いました。それでも彼は神と断絶することを拒否したのです。その代わりこう言いました。

「神が私を殺すと言うなら私は何も望まず」（ヨブ13:15a）
「私は知っている。私を贖う方は生きておられ」（ヨブ19:25a）

ヨブは神を信じることを止めることを拒否したのです。そして神の大きな慈悲と憐みにより、失った全てを神が再度与えたのです。ヤコブは言います。「私たちは試練に対してこのように応対すべきである」

預言者たちや神に従う人々の話をするとき、かなり独特な何かがあります。ヤコブは言います。

11節「私たちは忍耐した人たちを幸いな者とたたえます。」

「幸い」は「幸せ」とは違います。
「幸せ」主観的な状態です。感情です。
「幸い」は客観的な状態です。神に「認められた」人と神との関係を表しています。神との「特別な関係」なのです。

これが、辛辣な言葉や扱いを受けた時、不平を唱えることを避け、忍耐をもって神の裁きを待った結果得るものです。逃してはだめです。これがそうなのです。試練を通して、神は神と私たちの「特別な関係」を形成してくださいます。

何年か前、教会で会議がありました。ある人が、愛がなくて無神経だと解釈されるような発言をしたことを覚えています。その言葉でその場にいた別の男性がショックを受けていることに気がつきました。その表情からかれが嫌な思いをしていることは明らかでした。

彼は傷ついているようでした。目は開いていましたが、祈っているように見えました。会議中その人は自分の言葉や感情を注意深く守っているようでした。そのように彼は罪を犯さず、神を敬ったのです。

彼の言葉は最後まで、ゆっくりと丁寧で、穏やかで愛がありました。その日、私は「信仰深い人」の存在に気づきました。その人が主と持っておられたような「関係」を私も持っていたいと願いました。彼は「幸い」な方でした。私は家でも、仕事でも、教会でも、いつでもそのようでありたいと思いました。

これが、ヤコブが私たちに求める「忍耐」です。しかしこれは人が「生まれ持った性質」ではありません。「イエス様の忍耐」です。これは「神の性質」なのです。

このような「性質」を得る方法はたった一つです。つまり、まず、その性質が自分にないことを認める。私たちは神を信頼する代わりに不平を唱えることが大好きな罪人です。
イエスは私たちの罪のために死んで蘇ったと信じる。イエスに私たちを赦し、変えて欲しいと願う。そうすれば、他の人が私たちに罪を犯した時も、神に対して罪を犯すことはなくなります。神を信頼することを学ぶことで、神の忍耐と根気と性質を得るのです。私たちの「試練」を通して、私たちが「幸い」な者となりますように。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg0623jp

★クラス 301
賜物発見クラス
2月5日（日）13：00～17：00
★クラス 401
ミッションの発見
2月19日（日）13：00～17：00
★クラス 101
教会員になるためのクラス
2月26日（日）13：00～17：00

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

3．日本語字幕作成/オペレーター
月1回～土曜日16時～
プロプレゼンターというソフトで翻訳された原稿を字幕に落とします。操作は簡単で1回のトレーニングで作成できるようになります。作成に1時間くらいかかります。その後19時からの字幕オペレーターもお願いします。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org